WebSphere. Lombardi Edition 7.2

アップグレード・ガイド

IBM®

目次

著作権表示 1
WebSphere Lombardi Edition バージョン 7.2.0 へのアップグレード 2
すべての環境のデータベースのアップグレード 3
既存のインストール済み環境のバックアップ 3
カスタマイズ内容の項目リストの作成 4
データベースのバックアップ 4
WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストール 4
既存のデータベースのアップグレード 5
カスタマイズ内容の適用 7
アップグレードの検査 7
資産のエクスポートおよびインポート 8
始める前に 8
従う手順 8
現行バージョンからの既存の資産のエクスポート 9
既存のインストール済み環境のバックアップ 9
カスタマイズ内容の項目リストの作成 10
データベースのバックアップ 10
WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストール 10
カスタマイズ内容の適用 11
既存の資産の WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 へのインポート 11
実装の検査 12
特記事項および商標 13
特記事項 13
商標 14

著作権表示

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、特記事項に記載されている情報をお読みください。

© Copyright International Business Machines Corporation 2010. All Rights Reserved.

IBM WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 Licensed Materials - Property of IBM.

WebSphere Lombardi Edition バージョン 7.2.0 へのアップグレード

Lombardi Teamworks バージョン 7.0.0 または 7.0.1、あるいは IBM® WebSphere® Lombardi Edition バージョン 7.1.0 を実行中の場合は、以下の各セクションで説明されているように、WebSphere Lombardi Edition バージョン 7.2.0 にアップグレードすることができます。 このアップグレード操作には、以下のオプションがあります。

オプション	使用する時期	詳細の参照先
すべての環境のデータをアップグレード	プロセスを現在実行中で、すべてのランタイム・データおよびインスタンスを保持したい場合は、ご使用の Process Center とそれぞれのランタイム環境にある Lombardi Teamworks データベースまたは WebSphere Lombardi Edition データベースをアップグレードする必要があります。このオプションによって、すべての設計データとヒストリーも保持されます。 Process Center と各ランタイム環境は、同じバージョンの Teamworks または WebSphere Lombardi Edition 7.1.0 を実行中でなければなりません。 したがって、Process Center と各ランタイム環境のアップグレードは、非常に短い時間内に済むはずです。それが可能でないときは、IBM お客様サポートに連絡して、バージョンの競合やその他の潜在的な問題を防止するアップグレードのための手法の開発を依頼してください。	すべての環境のデータベースのアップグレード
すべての資産を現行バージョンからエクスポートして、WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 にインポート	ランタイム・データおよびインスタンスを保持する必要がない場合。 このオプションは、ほとんどの場合において Teamworks のアップグレードにも WebSphere Lombardi Edition のアップグレードにも推奨されません。参照先セクションの情報を検討して、ツールキットおよびスナップショット・ヒストリーがどのように影響を受けるかを認識してから、それでもアップグレードをこの方法で行う必要があると考える場合には、IBM お客様サポートにお問い合わせください。	資産のエクスポートおよびインポート

すべての環境のデータベースのアップグレード

以下の表は、既存の Lombardi Teamworks データベースまたは WebSphere Lombardi Edition 7.1.0 データベースのアップグレードによって IBM® WebSphere® Lombardi Edition 7.2.0 にアップグレードするときに実行する必要のあるタスクのリストです。

タスク	詳細の参照先
1. 既存のインストール済み環境 (Process Center とランタイム環境) をバックアップする。	既存のインストール済み環境のバックアップ
2. それぞれのインストール済み環境についてカスタマイズ内容の項目リストを作成する。	カスタマイズ内容の項目リストの作成
3. データベース (Process Center とランタイム環境) をバックアップする。	データベースのバックアップ
4. WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 の Process Center とランタイム環境をインストールする。	WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストール
5. Process Center とランタイム環境のデータベースをアップグレードする。	既存のデータベースのアップグレード
6. カスタマイズ内容をそれぞれの新規インストール済み環境に適用する。	カスタマイズ内容の適用
7. WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 サーバーを始動して、すべてのデータを検査する。	アップグレードの検査

既存のインストール済み環境のバックアップ

バックアップによってファイルと設定を保存して、新規の WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 インストール済み環境に転送することができます。WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 をインストールしても既存のインストール済み環境は変更されませんが、それでもアップグレードを実行する前にバックアップを作成するようにしてください。

Process Center と各ランタイム環境のインストール済み環境のバックアップを作成してください。

デフォルトのインストール・ディレクトリーは次のとおりです。

- Teamworks 7.0.0 および 7.0.1 の場合:
  - Windows®: `[System_drive]/Teamworks7` (`[System_drive]` は Teamworks がインストールされているドライブ)
  - UNIX®: `[Home]/teamworks7` (`[Home]` はユーザーのホーム・ディレクトリー)
- WebSphere Lombardi Edition 7.1.0 の場合:
  - Windows: `[System_drive]/IBM/Lombardi7` (`[System_drive]` は Lombardi がインストールされているドライブ)
  - UNIX: `[Home]/lombardi7` (`[Home]` はユーザーのホーム・ディレクトリー)

各インストール・ディレクトリーを見つけて、それをバックアップ・ディレクトリーにコピーします。

カスタマイズ内容の項目リストの作成

アップグレードを実行する前に、既存のインストール済み環境に加えたすべてのカスタマイズ内容のリストを作成して、カスタマイズされたファイルのバックアップ・コピーを用意するようにしてください。例えば、Process Center の構成設定を、`100Custom.xml` ファイルを使用して変更した場合は、そのファイルのコピーが使用できることが必要です。こうしておくことにより、カスタマイズされた設定を新規インストール済み環境に簡単に適用できます。

`99Local.xml` や `00Static.xml` などの構成ファイルを直接編集することにより構成設定を変更した場合は、インストール済み環境ごとに、それぞれの変更されたファイルのバックアップ・コピーを用意するようにしてください。

WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストールでは WebSphere Application Server 7.0 が自動的にインストールされます。組み込みアプリケーション・サーバー設定について詳しくは、*WebSphere Application Server バージョン 7.0 インフォメーション・センター* を参照してください。カスタマイズ内容に影響する可能性のある他の変更については、「*WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 リリース・ノート*」を参照してください。

データベースのバックアップ

WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 にアップグレードする前に、既存の Teamworks または WebSphere Lombardi Edition データベースのバックアップ・コピーを作成します。こうすることにより、必要に応じていつでも、データベースをアップグレード前の状態に戻すことができるようになります。

Process Center データベースと、各ランタイム環境のデータベースもバックアップを作成する必要があります。

ほとんどのデータベースに、データベース・バックアップを作成するためのバックアップ・ウィザードまたはユーザー支援が用意されています。詳細については、データベース管理者に連絡してください。

WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストール

Lombardi Process Center と必要なすべてのランタイム環境をインストールします。インストーラー・プログラムから直ちに Lombardi をインストールすることも、あるいは変更可能な自動インストーラー・パッケージを作成して後で非対話式にインストールすることもできます。インストールの説明については、サーバー・タイプ、インストール・タイプ、およびオペレーティング・システムに該当するガイドを参照してください。

サーバー・タイプ	対話式インストール	自動化インストール
Process Center	*Process Center インストールおよび構成ガイド (Windows 版)* *Process Center インストールおよび構成ガイド (UNIX 版)*	*Automated Process Center インストールおよび構成ガイド (Windows 版)* *Automated Process Center インストールおよび構成ガイド (UNIX 版)*
ランタイム環境	*ランタイム環境のインストールおよび構成ガイド (Windows 版)* *ランタイム環境のインストールおよび構成ガイド (UNIX 版)*	*ランタイム環境の自動化インストールおよび構成ガイド (Windows 版)* *ランタイム環境の自動化インストールおよび構成ガイド (UNIX 版)*

以前のバージョンを UNIX プラットフォーム上で実行するときにレポートのレンダリングのために必要でしたが、X Window システムの仮想フレーム・バッファー (Xvfb) は WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 では不要です。UNIX サーバー上で Xvfb が他の目的に必要ない場合は、Xvfb を停止できます。Xvfb が他の目的に必要な場合は、それを同一画面で WebSphere Lombardi Edition として実行すると、Lombardi レポートのレンダリングが失敗する原因になります。したがって、その場合は、Lombardi サーバーを始動する前に、UNIX ホスト上で $DISPLAY 環境変数の値を必ず変更してください。

WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 インストール・プログラムにおける以下の選択は、アップグレードに固有のものです。

- WebSphere Lombardi Edition 7.1.0 をデフォルトのインストール・ディレクトリーに以前にインストールした場合は、WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストール用には異なるディレクトリーを選択してください。7.1.0 と 7.2.0 の両方とも同じデフォルトのインストール・ディレクトリーを使用します。
- アップグレードして WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 で使用する既存のデータベースに対してパラメーターを指定します。
- WebSphere Lombardi Edition インストーラーでは「新規データベースの初期化?」オプションを選択*しない* でください。また、各種のインストールおよび構成ガイドに記載されている初期データをロードする手順も実行しないでください。既存のデータベースのアップグレードに説明されているアップグレード・ユーティリティーによって、WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のために必要なすべてのデータベースおよびシステム・データの初期化が実行されます。
- 「IBM WebSphere Lombardi Edition の始動」を選択*しない* でください。Lombardi Process Center とランタイム環境は、データベースのアップグレード時に稼働中であってはなりません。

既存のデータベースのアップグレード

アップグレード・ユーティリティーは、WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 で使用するために既存のデータベース・スキーマとデータを変更します。Teamworks 7.0.0 または 7.0.1 からのアップグレードでは、この変更には WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 が使用する暗号化アルゴリズムで機能するように暗号化パスワードを変換することが含まれます。暗号化パスワードは、内部セキュリティー・プロバイダー経由で定義されたユーザーのため、セキュア Web サービス統合のため、あるいは Microsoft® SharePoint 統合のためにデータベースに保管されている可能性があります。

アップグレード・ユーティリティーは、以下の資産も WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 に更新します。

- Lombardi System Data ツールキット
- Process Portal プロセス・アプリケーション
- 「クイック・スタート」プロセス・アプリケーション

以下の表は、データベースのアップグレードを実行する前に行う必要のあるすべてのステップのリストです。

先に進む前に必ず、既存のデータベースのバックアップを作成してください。

Teamworks または WebSphere Lombardi Edition の現行バージョン	WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 をインストールする予定のファイル・システム	行う手順
• Lombardi Teamworks 7.0.0 または 7.0.1 • 以前に Teamworks 7.0.0 または 7.0.1 からアップグレードされた WebSphere Lombardi Edition 7.1.0	既存の Teamworks または WebSphere Lombardi Edition インストール済み環境と同じファイル・システム	`[Lombardi_home]/upgrade` ディレクトリーで、`upgrade.properties` ファイルを変更して、`previous.lombardi.install.dir` プロパティーの値を現在のインストール・ディレクトリーに設定します。 このプロパティーが欠落しているか無効な場合、アップグレード・スクリプトは暗号化パスワードをアップグレードすることができませんが、それでも他のアップグレード処理は実行できます。
Lombardi Teamworks 7.0.0 または 7.0.1	既存の Teamworks または WebSphere Lombardi Edition インストール済み環境とは異なるファイル・システム	`utility.jar` を古いインストール済み環境の `[Teamworks_home]/process-center/lib` または `[Teamworks_home]/process-server/lib` から新しいインストール済み環境のファイル・システム上の `[some_dir]/process-center/lib` にコピーして、`previous.lombardi.install.dir` を `[some_dir]` に設定します。
以前に Teamworks 7.0.0 または 7.0.1 からアップグレードされた WebSphere Lombardi Edition 7.1.0	既存の Teamworks または WebSphere Lombardi Edition インストール済み環境とは異なるファイル・システム	`[Lombardi_home_710]/AppServer/lib/ext/jcrypt.jar` がインストール済み環境にある場合は、それを `[Lombardi_home_720]/AppServer/lib/ext` にコピーします。

データベースのアップグレードを実行するには、`[Lombardi_home]/upgrade` ディレクトリーにナビゲートして、`Upgrade.bat` (Windows) または `Upgrade.sh` (UNIX) を実行します。スクリプトによって既存のスキーマが更新され、データがマイグレーションされます。 以前に Teamworks 7.0.0 または 7.0.1 から WebSphere Lombardi Edition 7.1.0 にアップグレードした場合、スクリプトは WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 で機能するように暗号化パスワードの変換も行います。

スクリプトは両方のデータベースの状態を検出して、必要なステップのみを適用するので、いつ再実行しても不都合はありません。ステップが失敗した場合は、その失敗の原因になった問題に対処した後で、アップグレード・スクリプトを再実行するだけです。

アップグレード・ユーティリティーは「システム・データ」ツールキットをWebSphere Lombardi Edition バージョン 7.2.0 に更新しますが、既存の依存関係を自動的に更新することはありません。Lombardi Authoring Environment を開き、それぞれのプロセス・アプリケーションおよびツールキットの下にある手順に従って、既存の依存関係を更新してください。

1. 「Toolkit」の下で「システム・データ」ツールキットを右クリックします。
2. 「依存関係のバージョンの変更」を選択します。
3. 「依存関係の変更」スナップショット・リストから 7.2.0 スナップショットを選択します。

詳しくは、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」またはオンライン・ヘルプの『*ツールキットの管理および使用*』を参照してください。

カスタマイズ内容の適用

既存のインストール済み環境のバックアップからのカスタマイズされたファイルと、新規 WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 インストール済み環境の対応するファイルを比較して、設定のすべてが正しく新規インストール済み環境に適用されていることを確認します。以下の成果物について、カスタマイズされた設定が適用されていることを確認してください。

- 構成ファイルおよび設定

  Performance Data Warehouse データベースのトラッキング対象フィールドの長さをカスタマイズした場合は、Performance Data Warehouse の `max-length-of-string-columns` プロパティーの値を必ず更新してください。詳しくは、「*Lombardi 管理ガイド*」の『*追跡されるパフォーマンス・データの最大文字数の拡張*』を参照してください。

  現在 Teamworks 7.0.0 または 7.0.1 を実行している場合は、WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 では異なる暗号化アルゴリズムが使用されることに注意してください。 構成ファイルを更新するときは、現行バージョンによって作成された暗号化パスワードを、7.2.0 によって暗号化されたパスワードで置換するようにしてください。パスワードの暗号化について詳しくは、「インストールおよび構成ガイド」の『*パスワードの暗号化*』を参照してください。

- アプリケーション・サーバー・データベース接続プール設定およびチューニング・パラメーター
- E メール・テンプレート
- ロギング構成
- 以下のステップを行って CSS ファイル、CoachDesigner.xsl、イメージ、HTML ファイル、JAR ファイルなどのカスタマイズされたファイル
  - プロセス・アプリケーションまたはツールキットにまだ追加されていない、現行バージョン内のカスタマイズされたファイルを管理対象資産として組み込みます。
  - CoachDesigner.xsl をカスタマイズした場合は、これを管理対象資産としてアップロードします。アップグレードの一部としてインストールされるデフォルトの xsl ファイルの代わりに、このファイルを使用できます。

    WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 から、CoachDesigner.xsl は管理対象の資産です。

    詳しくは、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」またはオンライン・ヘルプの『*プロセス・アプリケーション設定の編集*』および『*ツールキット設定の編集*』を参照してください。

アップグレードの検査

「*インストールおよび構成ガイド*」に説明されているように、それぞれの環境で WebSphere Lombardi Edition 7.2.0サーバーを始動します。Lombardi Authoring Environment で Process Center Console と Designer を使用して、すべてのプロセス・アプリケーション、ツールキット、および資産がリポジトリーで使用可能なことを確認できます。エラーの有無を調べ、問題があれば、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」およびオンライン・ヘルプの『*プロセスの検証*』に説明されているように、その問題を訂正することができます。

Process Center Console で、接続済みサーバーが表示されていること、および以前にインストールしたスナップショットが正確にリストされていることを確認します。Lombardi Authoring Environment で Inspector を使用して、アクティブ・インスタンスを検査できます。

資産のエクスポートおよびインポート

このアップグレード・オプションは、ほとんどの場合において WebSphere® Lombardi Edition へのアップグレードに推奨されません。始める前にを読み、既存の資産がエクスポートおよびインポートによってどのように影響を受けるか理解してください。

始める前に

大多数の場合に、すべての環境のデータベースをアップグレードすることで、Teamworks および WebSphere Lombardi Edition 7.1.0 で提供されるすべてのフィーチャーと柔軟性が確実に保持されます。既存の資産をエクスポートしてからインポートした場合、ご使用の資産は次のような影響を受けます。

- インポートされたツールキットは不変である。
- プロセス・アプリケーションとツールキットのスナップショット・ヒストリーは失われる。

インポートされたツールキットは不変であるため、誰もその中の項目を変更できません。しかも、ユーザーは誰も、インポートされたツールキットが不変である性質を変更することはできません。ただし、ツールキットをインポートしたユーザーは、そのツールキットに対する管理権限を持つので、以下のアクセス権限を他のユーザーおよびグループに付与できます。

読み取り	読み取り権限を持つユーザーは、インポートされたツールキットのクローンを作成するか、ツールキットから別のツールキットまたはプロセス・アプリケーションに項目をコピーすることができます。
書き込み	書き込み権限を持つユーザーは、読み取り権限に含まれるすべての能力を持つほか、新バージョンのツールキットをインポートし、古いバージョンのツールキットをアーカイブすることができます。また、書き込み権限を持つユーザーは、以前にアーカイブしたバージョンを復元することもできます。
管理	管理権限を持つユーザーは、書き込み権限に含まれるすべての能力の持つほか、ツールキットに対する管理権限を付与または除去できます。

プロセス・アプリケーションやツールキットをエクスポートする場合は、そのエクスポート手順に対するスナップショットを選択します。ほとんどのケースで、最新のスナップショットを選択し、場合によって、重要なマイルストーンを表す 1 つ以上のスナップショットを追加で選択します。特定のスナップショットをエクスポートするので、Lombardi Process Center リポジトリーに保管した可能性のあるすべての追加スナップショットで提供されるヒストリーを失います。

データベースのアップグレードでは、ツールキットは可変のままで、すべてのプロセス・アプリケーションとツールキットに関してスナップショット・ヒストリー全体が保持されます。これらの理由から、すべての環境のデータベースのアップグレードに概要が示されているデータベースのアップグレードは、ほとんどの場合に適切です。

従う手順

以下の表は、既存の資産のエクスポートとインポートによって WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 にアップグレードするときに実行する必要のあるタスクのリストです。

タスク	詳細の参照先
1. 既存の資産をエクスポートする。	現行バージョンからの既存の資産のエクスポート

タスク	詳細の参照先
2. 既存のインストール済み環境 (Process Center とランタイム環境) をバックアップする。	既存のインストール済み環境のバックアップ
3. それぞれのインストール済み環境についてカスタマイズ内容の項目リストを作成する。	カスタマイズ内容の項目リストの作成
4. 既存のデータベースをバックアップする。	データベースのバックアップ
5. Lombardi 7.2.0 Process Center とランタイム環境をインストールする。	WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストール
6. カスタマイズ内容をそれぞれの新規インストール済み環境に適用する。	カスタマイズ内容の適用
7. 既存の資産を WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 の Process Center にインポートする。	既存の資産の WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 へのインポート
8. Lombardi Authoring Environment の Designer で実装を検査する。	実装の検査

現行バージョンからの既存の資産のエクスポート

Process Center Console を使用して資産をエクスポートできます。Process Center Console にアクセスするには、Authoring Environment を開始するか、Web ブラウザーで `http://[host_name]:[port]/ProcessCenter` を開きます。Process Center Server は稼働中でなければなりません。

1. 「*Authoring Environment ユーザー・ガイド*」およびオンライン・ヘルプの『*Process Center Console からのプロセス・アプリケーションのインポートとエクスポート*』および『*Process Center Console からのツールキットのインポートとエクスポート*』に説明されているように、既存のプロセス・アプリケーションとツールキットをエクスポートします。

2. 既存のすべての資産のエクスポートが終了したら、Authoring Environment を終了するか、ブラウザー・ウィンドウを閉じます。

3. 「*インストールおよび構成ガイド*」に説明されているように、Process Center と各ランタイム環境のサーバーを停止します。

既存のインストール済み環境のバックアップ

バックアップによってファイルと設定を保存して、新規の WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 インストール済み環境に転送することができます。7.2.0 をインストールしても既存のインストール済み環境は変更されませんが、それでもアップグレードを実行する前にバックアップを作成するようにしてください。

Process Center と各ランタイム環境のインストール済み環境のバックアップを作成してください。

デフォルトのインストール・ディレクトリーは次のとおりです。

- Teamworks 7.0.0 および 7.0.1 の場合:
  - Windows®: `[System_drive]/Teamworks7` (`[System_drive]` は Teamworks がインストールされているドライブ)
  - UNIX®: `[Home]/teamworks7` (`[Home]` はユーザーのホーム・ディレクトリー)
- WebSphere Lombardi Edition 7.1.0 の場合:

- Windows: `[System_drive]/IBM/Lombardi7` (`[System_drive]` は Lombardi がインストールされているドライブ)
- UNIX: `[Home]/lombardi7` (`[Home]` はユーザーのホーム・ディレクトリー)

各インストール・ディレクトリーを見つけて、それをバックアップ・ディレクトリーにコピーします。

カスタマイズ内容の項目リストの作成

アップグレードを実行する前に、既存のインストール済み環境に加えたすべてのカスタマイズ内容のリストを作成して、カスタマイズされたファイルのバックアップ・コピーを用意するようにしてください。例えば、Process Center の構成設定を、`100Custom.xml` ファイルを使用して変更した場合は、そのファイルのコピーが使用できることが必要です。こうしておくことにより、カスタマイズされた設定を新規インストール済み環境に簡単に適用できます。

`99Local.xml` や `00Static.xml` などの構成ファイルを直接編集することにより構成設定を変更した場合は、インストール済み環境ごとに、それぞれの変更されたファイルのバックアップ・コピーを用意するようにしてください。

WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストールでは WebSphere Application Server 7.0 が自動的にインストールされます。組み込みアプリケーション・サーバー設定について詳しくは、*WebSphere Application Server バージョン 7.0 インフォメーション・センター* を参照してください。カスタマイズ内容に影響する可能性のある他の変更については、「*WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 リリース・ノート*」を参照してください。

データベースのバックアップ

WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 にアップグレードする前に、既存の Teamworks または WebSphere Lombardi Edition データベースのバックアップ・コピーを作成します。こうすることにより、必要に応じていつでも、データベースをアップグレード前の状態に戻すことができるようになります。

Process Center データベースと、各ランタイム環境のデータベースもバックアップを作成する必要があります。

ほとんどのデータベースに、データベース・バックアップを作成するためのバックアップ・ウィザードまたはユーザー支援が用意されています。詳細については、データベース管理者に連絡してください。

WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 のインストール

Lombardi Process Center と必要なすべてのランタイム環境をインストールします。説明については、サーバー・タイプ、インストール・タイプ、およびオペレーティング・システムに該当する「*インストールおよび構成ガイド*」を参照してください。

必ず、Lombardi インストーラーでオプション「新規データベースの初期化?」を選択するか、「インストールおよび構成ガイド」の『*初期データのロード*』に説明されているように、WebSphere Lombardi Edition インストールごとに初期化スクリプトを実行してください。

以前のバージョンを UNIX プラットフォーム上で実行するときにレポートのレンダリングのために必要でしたが、X Window システムの仮想フレーム・バッファー (Xvfb) は WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 では不要です。UNIX サーバー上で Xvfb が他の目的に必要ない場合は、Xvfb を停止できます。Xvfb が他の目

的に必要な場合は、それを同一画面で WebSphere Lombardi Edition として実行すると、Lombardi レポートのレンダリングが失敗する原因になります。したがって、その場合は、Lombardi サーバーを始動する前に、UNIX ホスト上で $DISPLAY 環境変数の値を必ず変更してください。

カスタマイズ内容の適用

既存のインストール済み環境のバックアップからのカスタマイズされたファイルと、新規 WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 インストール済み環境の対応するファイルを比較して、設定のすべてが正しく新規インストール済み環境に適用されていることを確認します。以下の成果物について、カスタマイズされた設定が適用されていることを確認してください。

- 構成ファイルおよび設定

  Performance Data Warehouse データベースのトラッキング対象フィールドの長さをカスタマイズした場合は、Performance Data Warehouse の `max-length-of-string-columns` プロパティーの値を必ず更新してください。詳しくは、「*Lombardi 管理ガイド*」の『*追跡されるパフォーマンス・データの最大文字数の拡張*』を参照してください。

  現在 Teamworks 7.0.0 または 7.0.1 を実行している場合は、WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 では異なる暗号化アルゴリズムが使用されることに注意してください。 構成ファイルを更新するときは、現行バージョンによって作成された暗号化パスワードを、7.2.0 によって暗号化されたパスワードで置換するようにしてください。パスワードの暗号化について詳しくは、「インストールおよび構成ガイド」の『*パスワードの暗号化*』を参照してください。

- アプリケーション・サーバー・データベース接続プール設定およびチューニング・パラメーター
- E メール・テンプレート
- ロギング構成
- 以下のステップを行って CSS ファイル、CoachDesigner.xsl、イメージ、HTML ファイル、JAR ファイルなどのカスタマイズされたファイル
  - プロセス・アプリケーションまたはツールキットにまだ追加されていない、現行バージョン内のカスタマイズされたファイルを管理対象資産として組み込みます。
  - CoachDesigner.xsl をカスタマイズした場合は、これを管理対象資産としてアップロードします。アップグレードの一部としてインストールされるデフォルトの xsl ファイルの代わりに、このファイルを使用できます。

    WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 から、CoachDesigner.xsl は管理対象の資産です。

    詳しくは、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」またはオンライン・ヘルプの『*プロセス・アプリケーション設定の編集*』および『*ツールキット設定の編集*』を参照してください。

既存の資産の WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 へのインポート

WebSphere Lombardi Edition 7.2.0 の Process Center Server が稼働中であることを確認してから、Process Center Console を開始します。Process Center Console にアクセスするには、Lombardi Authoring Environment を開始するか、Web ブラウザーで `http://[host_name]:[port]/ProcessCenter` を開きます。

1. 「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」およびオンライン・ヘルプの『*Process Center Console からのプロセス・アプリケーションのインポートとエクスポート*』および『*Process Center Console からのツールキットのインポートとエクスポート*』に説明されているように、以前にエクスポートしたプロセス・アプリケーションとツールキットをインポートします。

   インポートしたプロセス・アプリケーションまたはツールキットがその実装 (例えば、保護された Web サービス実装) にパスワードを含む場合、パスワード・フィールドは Lombardi 7.2.0 へのインポート時にブランクです。

2. インポートした資産に、Performance Data Warehouse が必要とするトラッキング・グループなどのデータが含まれる場合は、そのウェアハウスが稼働中であることを確認して、メインメニューから「File」 > 「Send definitions to Performance Data Warehouse」を選択します。既存の定義を送信すると、作成者は、レポート (およびパフォーマンス・データが必要なその他の資産) をテストするために必要なデータを、Lombardi Authoring Environment でそれらの資産を開発するときに収集できます。

実装の検査

資産をインポートした後、それらを Lombardi Authoring Environment の Designer で開き、妥当性検査エラーの有無を調べます。インポートされたそれぞれのアプリケーションやツールキットを開いて、「*Lombardi Authoring Environment ユーザー・ガイド*」およびオンライン・ヘルプの『*プロセスの検証*』に説明されているように、エラーがないか検査することができます。

特記事項および商標

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、 本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。 日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。 本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、または サービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の 製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。 ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの 評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について 実施権を許諾することを意味するものではありません。 実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒242-8502
神奈川県大和市下鶴間1623番14号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が 禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。 本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、 改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、 便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものでは ありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部では ありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、 自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Intellectual Property Dept. for WebSphere Software
IBM Corporation
3600 Steeles Ave. East
Markham, Ontario
Canada L3R 9Z7

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で 決定されたものです。 そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。 一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、 その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。 さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。 実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、 もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、 他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、 予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。 より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、 あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、 名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに 準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、 いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、 配布することができます。 このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。 従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© （お客様の会社名）（西暦年）. このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。
© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は 表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml [http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml] をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft **および** Windows **は、**Microsoft Corporation **の米国およびその他の国における商標です。**

UNIX **は** The Open Group **の米国およびその他の国における登録商標です。**

Java **およびすべての** Java **関連の商標およびロゴは** Sun Microsystems, Inc.**の米国およびその他の国における商標です。**